



さくらちょうしょう

桜町小だより

「緑と笑顔がいっぱい桜町小」

児童数 337名 令和6年12月2日(月)



自分を創り上げる

校長 小川 哲

日向と日陰の寒暖差に、お日様のありがたさと力強さを感じます。気が付くとさくら学級さんが育てている大根たちが土から顔をのぞかせています。

11月13日(水)、16日(土)それぞれ児童、保護者の方に向けて校内音楽会を実施いたしました。16日(土)には、学校運営協議会の皆様をご来賓として、本当にたくさんの皆様にご来校いただき、子供たちの「一生懸命」を感じていただきました。発表に至るまで、一人一人に、そして学級に、学年にそれぞれの物語がありました。それらを経て、あの日に感じたドキドキと達成感、全校のみんなや保護者の皆様からいただいたたくさんの拍手がこれからの子供たちが前に進むための力になります。素敵な雰囲気を作ってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。



笑顔の音楽会
息をそろえてきれいな
メロディーひびかせよう



先日、6年生が卒業制作として「陶芸」に挑戦していました。体育館を使って、学年で一人一人作品づくりに取り組んでいたのですが、「集中」というのでしょうか、「没頭」というのでしょうか、とにかく目の前の粘土を自分なりのイメージに近づけようと手を動かしていました。粘土を広げ、器の底を創り、そこに掌で粘土をひねりながら伸ばした「ひも」を一段ずつ積み重ねていきます。

「厚さは大丈夫かな」「ひもとひもは密着しているかな」と先生から説明のあった注意事項をチェックしながら作業を進めていました。その真剣に取り組んでいる様子から、桜町小の子供たちが日々取り組んでいる学習や生活もこの「陶芸」に似ているなあと思いました。一つ一つ積み重ねて自分という人格の基礎を築いたり、自己実現に向けて自分の力を積み重ねたりしているところなど…。「一生懸命やる」「真剣にやる」からこそ積み重なるのだと。それでもなかなかうまくいかないところもあるでしょう。かっこわるくなんかありません。まだ器を創っている途中なのだから。うまくいかなかったら、6年生が「ひも」をもう一度積み重ねたように、やり直せばいいのです。または、違う方法や違うときに挑戦すればいいのです。まだまだ成長中の子供たち。自信をもって、胸を張って自分なりの「一生懸命やる」「真剣にやる」ことを積み重ねてほしいと思います。そんな子供たちを教職員みんなで支えていきます。

最後に4年生が取り組んだ人権メッセージから一つ紹介いたします。

「大丈夫 失敗しても もう一度」